

A photograph of two hands, one from the left and one from the right, with fingers extended to form a triangular frame. Inside this frame is a sharp, snow-capped mountain peak. The background is a clear blue sky and a rocky, mountainous landscape. The image is overlaid with a blue and red geometric design in the corners.

To be the Sharpest
最・尖端を、世界へ。

2024年2月14日

I-PEX株式会社 2023年12月期 決算説明資料

I-PEX

証券コード:6640

Copyright © I-PEX Inc. All rights reserved.

連結決算ハイライト

<p>売上高 通期実績 590億円</p>	<p>前年同期比：▲6億円減（▲1.1%）</p> <ul style="list-style-type: none">■ コネクタ及び自動車関連部品需要低迷の影響を受けたQ1を底に、Q2以降は回復 <ul style="list-style-type: none">コネクタ Q1を底に、ノートパソコン向けコネクタ需要がQ2以降回復センサ 半導体不足の解消等による、自動車市場の回復に伴い、センサ需要が増加成形・組立部品 データセンター向け投資抑制により、大容量HDD部品需要が減少機械装置 車載用やパワー半導体用の設備需要は堅調に推移
---	--

<p>営業利益 通期実績 ▲7億円</p>	<p>前年同期比：▲17億円減</p> <ul style="list-style-type: none">■ 主要因:売上高減少、稼働率低迷、在庫調整等
---	---

2023年12月期

連結損益計算書



単位:百万円	22/12期	23/12期	構成比 (%)	増減率 (%)
売上高	59,643	59,014	100.0%	▲1.1%
売上原価	41,548	41,824	70.9%	-
売上総利益(粗利)	18,095	17,190	29.1%	▲5.0%
販売費及び一般管理費	17,116	17,949	30.4%	-
営業利益	978	▲759	▲1.3%	-
営業外収益	1,471	471	0.8%	-
営業外費用	329	267	0.5%	-
経常利益	2,120	▲555	▲0.9%	-
特別利益	72	506	0.9%	-
特別損失	1,059	639	1.1%	-
税金等調整前当期純利益	1,133	▲688	▲1.2%	-
法人税等合計	939	585	1.0%	-
非支配株主に帰属する当期純利益	25	▲4	0.0%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	168	▲1,269	▲2.2%	-
為替:円/US\$(期中平均)	132.1	141.2	-	-

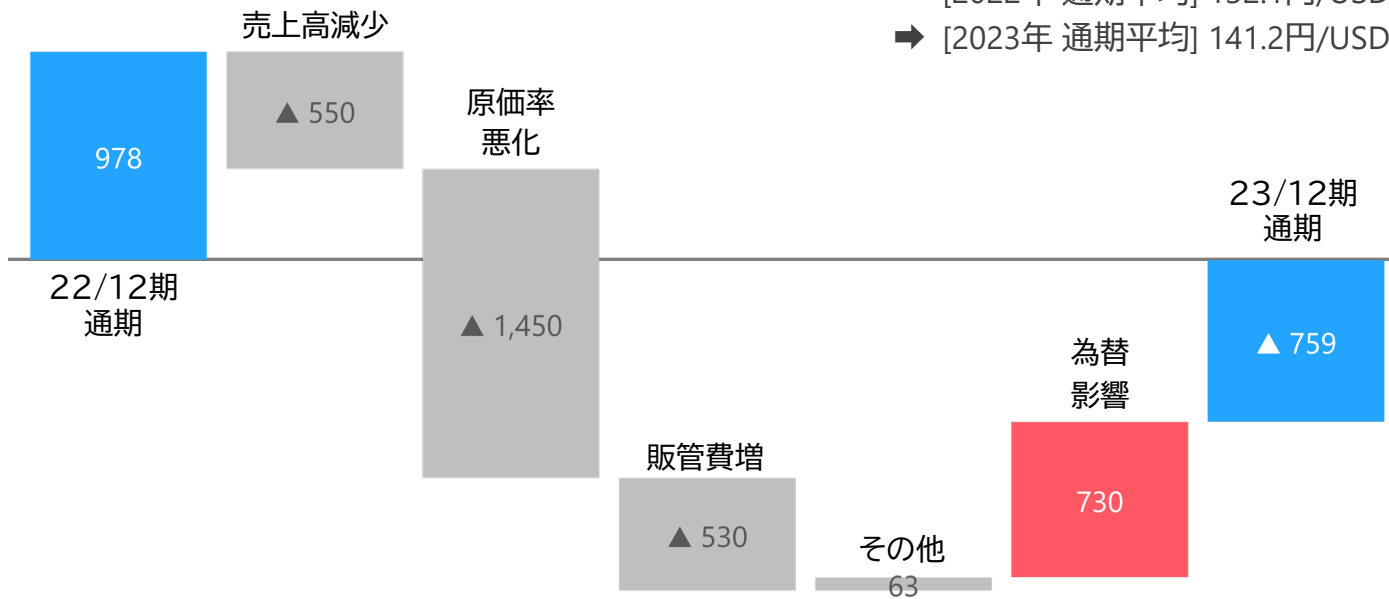
- Q1を底に、Q2～Q3にかけ回復基調に転じ、特にQ3では、約9億円の営業利益を計上。為替による増収効果もありQ4の売上高はQ3と同水準であったものの、旧正月前の需要や足元のフォーキャストが見通しを下回ったことから工場稼働が伸び悩みQ4の利益水準が低下。
- 棚卸資産:前年同期比較で約11億円減少。(Q4では、足元の状況や翌期の事業環境等を勘案し約9億円強の圧縮)
- 営業利益:上期の低迷や前年同期比での売上高の減少、その他要因により、営業利益も減益。
- 通期の営業外収益として為替差益196百万円、助成金収入137百万円を計上。固定資産売却による特別利益506百万円、固定資産の減損処理等による特別損失639百万円を計上。最終純損失としては1,269百万円となった。
- 為替(22年累計132.1円/USD → 23年累計141.2円/USD)による増収効果は、約20億円。

営業利益の増減要因

前年同期比較：売上高減少や稼働減・在庫圧縮による原価率悪化等に伴い減益

単位：百万円

[2022年 通期平均] 132.1円/USD
 → [2023年 通期平均] 141.2円/USD



主な増減要因(2022/12期通期比較) ※為替影響を除く

単位：百万円	前年同期比
減収による粗利減	▲ 550
原価率悪化による粗利減	▲ 1,450
生産量低下による稼働損、在庫圧縮による影響等	▲ 850
材料費、光熱費等の増加	▲ 600
販売管理費の増加	▲ 530
人件費の増加 ※1	▲ 300
のれん等償却費	▲ 100
研究開発費の増加 ※2	▲ 490
営業・技術活動費の増加	▲ 90
その他 経費の増加	▲ 250
その他 経費の減少 ※3	+700
為替の影響	+730

※1 増加額(日本円)としては490百万円であるが、為替影響を除くと約300百万円
 ※2 車載コネクタの開発費用を今期より研究開発費用へ科目振替(重要性が増したため)
 ※3 各経費の削減や売上高減少に伴う運送費・販売手数料の減少等

2023年12月期 連結貸借対照表



資産の部

単位:百万円	22/12期	23/12期	前年同期比
流動資産	41,193	43,281	+2,088
現金及び預金	14,293	15,607	+1,314
受取手形及び売掛金	12,578	14,512	+1,934
棚卸資産	12,177	11,086	▲1,091
固定資産	51,043	48,321	▲2,722
有形固定資産	45,688	43,167	▲2,521
無形固定資産	3,162	2,749	▲413
その他	2,191	2,404	+213
資産合計	92,237	91,603	▲634

売上債権回転期間(単位:ヶ月)	2.53	2.95	+0.42
棚卸資産回転期間(単位:ヶ月)	3.51	3.18	▲0.33

自己資本比率(単位:%)	63.1%	63.6%	+0.5
--------------	-------	--------------	-------------

負債・純資産の部

単位:百万円	22/12期	23/12期	前年同期比
流動負債	19,673	18,881	▲792
支払手形及び買掛金	2,194	2,499	+305
借入金	10,496	9,123	▲1,373
固定負債	14,217	14,333	+116
長期借入金	7,160	8,143	+983
負債合計	33,891	33,215	▲676
株主資本	53,484	51,473	▲2,011
純資産合計	58,346	58,387	+41
負債・純資産合計	92,237	91,603	▲634

- 有利子負債:前期末比 ▲390百万円
- 固定資産取得: 4,971百万円

2023年12月期 連結キャッシュフロー

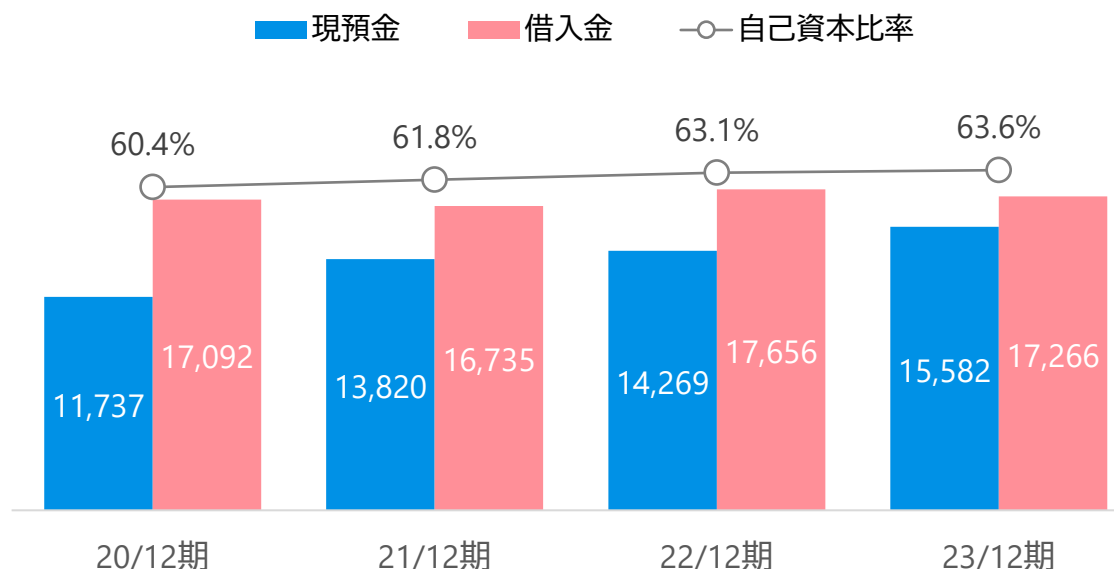


キャッシュフロー

単位:百万円	22/12期	23/12期
営業CF	9,669	6,868
投資CF	▲6,165	▲2,781
フリーCF	3,504	4,087
財務CF	▲3,690	▲3,066
現金・現金同等物の増加額	471	1,313
現金・現金同等物の期首残高	13,797	14,269
現金・現金同等物の期末残高	14,269	15,582

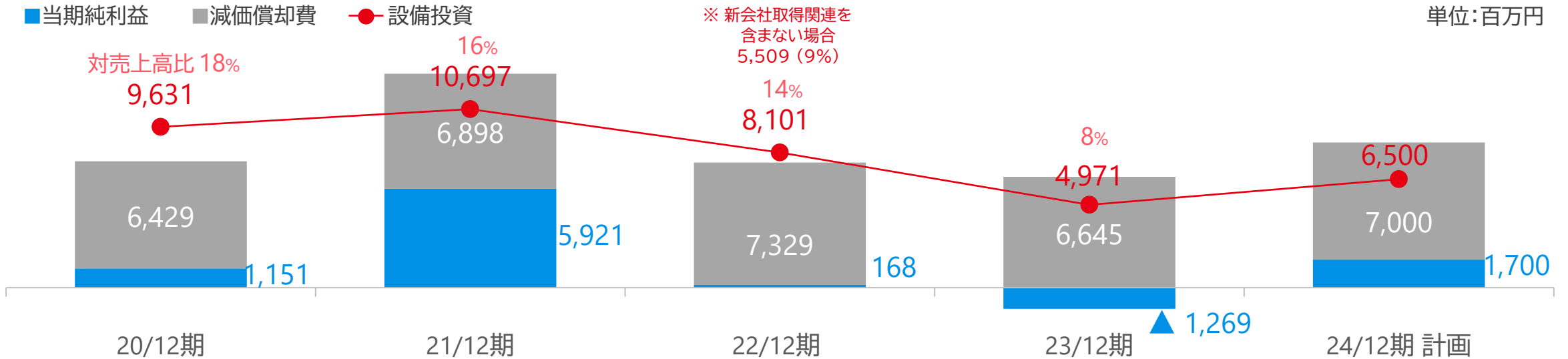
- **フリーキャッシュフロー:4,087百万円**
- 獲得利益の減少により営業CFは減少したが、設備投資の取捨選択や資産圧縮(棚卸資産の削減、固定資産売却等)により、投資CFを抑制したことからFCFはプラスを継続。

財務状況推移



単位:百万円	22/12期	23/12期	前年同期比
現金預金	14,269	15,582	+1,313
借入金	17,656	17,266	▲390
自己資本比率(%)	63.1%	63.6%	+0.5

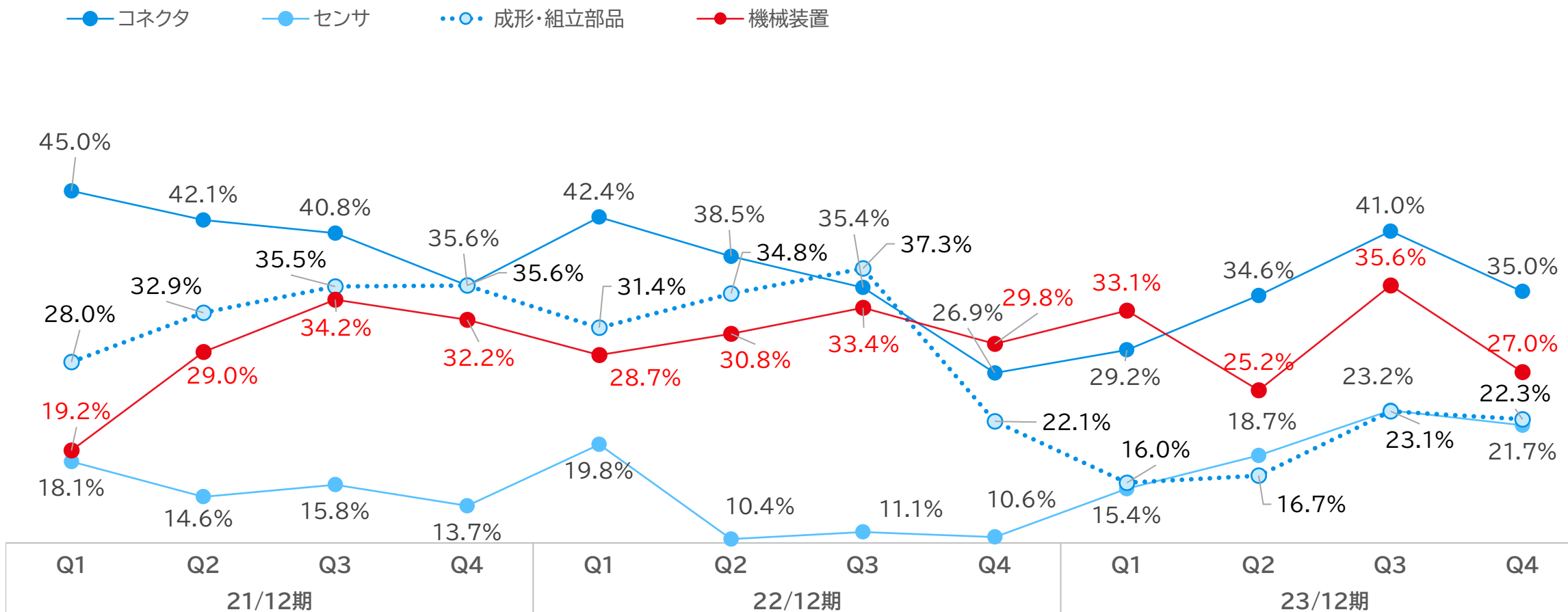
2023年実績・2024年計画 設備投資



単位: 億円	20/12期	21/12期	22/12期		23/12期		24/12期 計画	
機械装置、金型、検査装置等	72	82	52	基盤事業 51 重点事業 30	38	基盤事業 39 重点事業 10	58	基盤事業 52 重点事業 13
工場等の土地/建物、付帯設備	22	18	1		8		4	
その他	2	6	28		3		3	
合計	96	106	81		49		65	

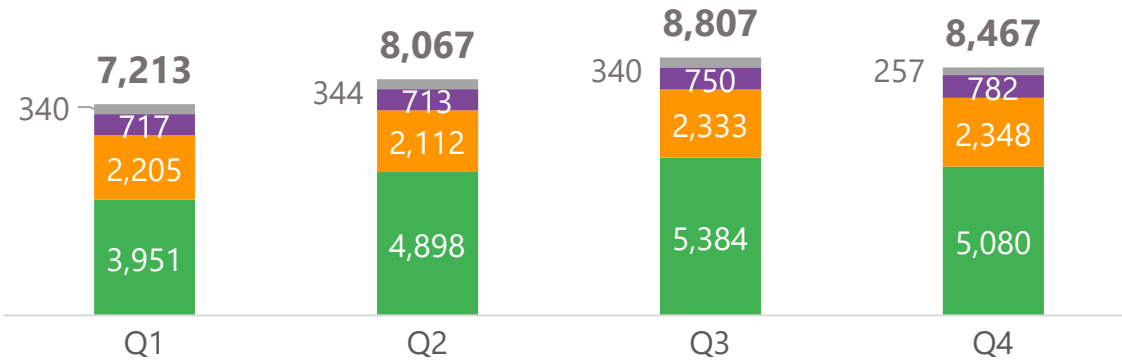
※ 22/12期の「その他」には新会社取得関連を含む

2021年12月期～2023年12月期 セグメント別 粗利益



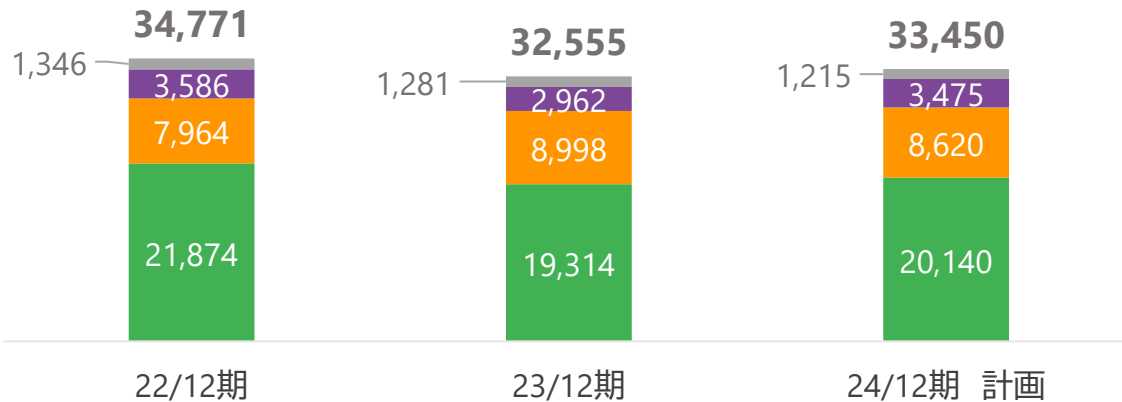
2023年 四半期別実績推移

単位:百万円



年度別実績/計画

単位:百万円



2023年Q4の概況

- **ライフ:** パソコン向けは、回復基調を維持。
- **モビリティ:** 好調な自動車市場に伴い、自動車向けが過去最高水準で推移。
- **デジタルインフラ:** データセンターの設備投資抑制により、サーバー向けが伸び悩み。ネットワーク向けは堅調。

2024年の概況

- **ライフ:** パソコン市場の復調に伴う、コネクタ需要の増加。
- **モビリティ:** 好調が予想される自動車市場に伴い、自社品の部品需要は増加。加工品は、モデル変更に伴う端境期のため、減少。
- **デジタルインフラ:** サーバー向け需要の高まりを受け、増加。(23年比 180%増)。ネットワーク向けは、パソコン市場の復調に伴い、23年と同水準。

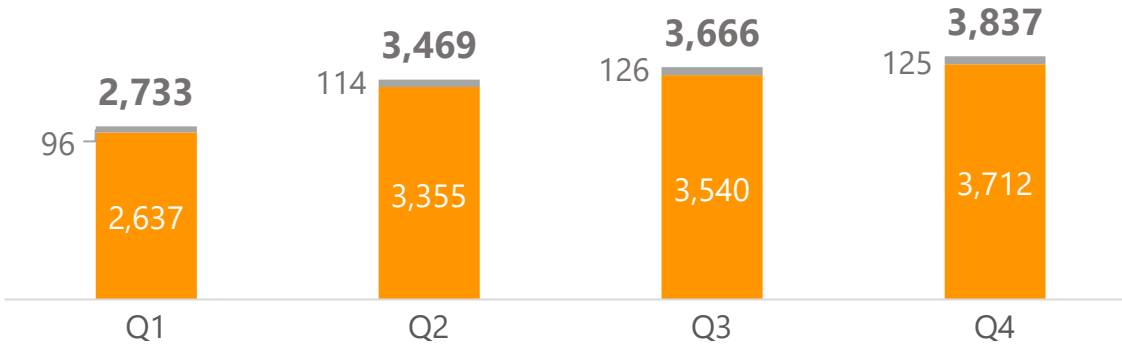
【トピック】AIサーバー向けコネクタ・ハーネス
[2023年] 計画通り → [2024年] 前年対比 250%増

CABLIN®-CA IIP PLUS



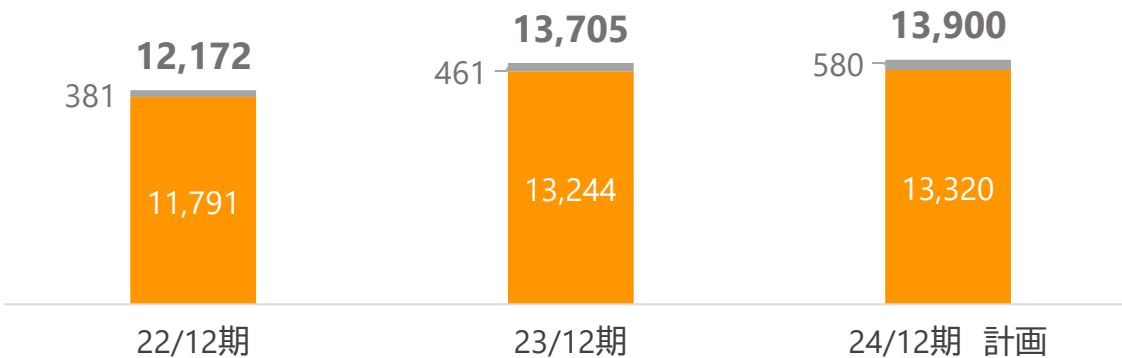
2023年 四半期別実績推移

単位:百万円



年度別実績 / 計画

単位:百万円



2023年Q4の概況

- **モビリティ**: 好調な自動車市場の需要に伴い、Q2以降高水準を維持。エアバック用センサ等が伸長。
- **インダストリー**: 人協働ロボット向けトルクセンサが堅調。

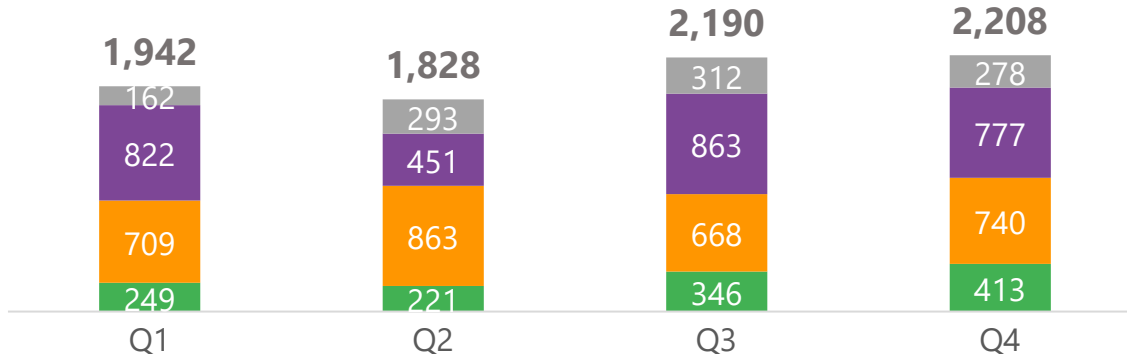
2024年の概況

- **モビリティ**: 好調な自動車市場の継続に伴い、各種センサ関連需要は安定的に推移。
- **インダストリー**: 拡販活動の強化により、23年比125%増。

セグメント別 売上高 | 成形・組立部品

2023年 四半期別実績推移

単位:百万円

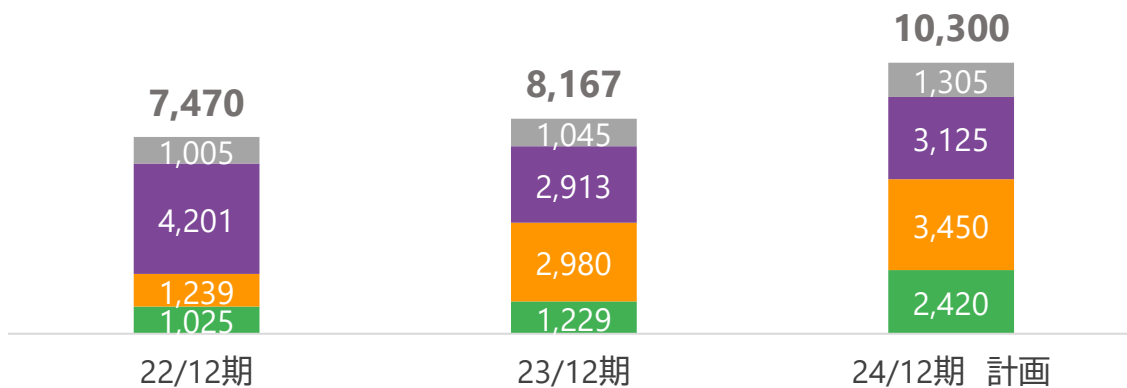


2023年Q4の概況

- **ライフ**:法医学関連部品の需要が堅調。
- **モビリティ**:好調な自動車市場需要に伴い、回生ブレーキ等が堅調。
- **デジタルインフラ**:データセンター向けHDD関連部品が計画通り推移。

年度別実績/計画

単位:百万円



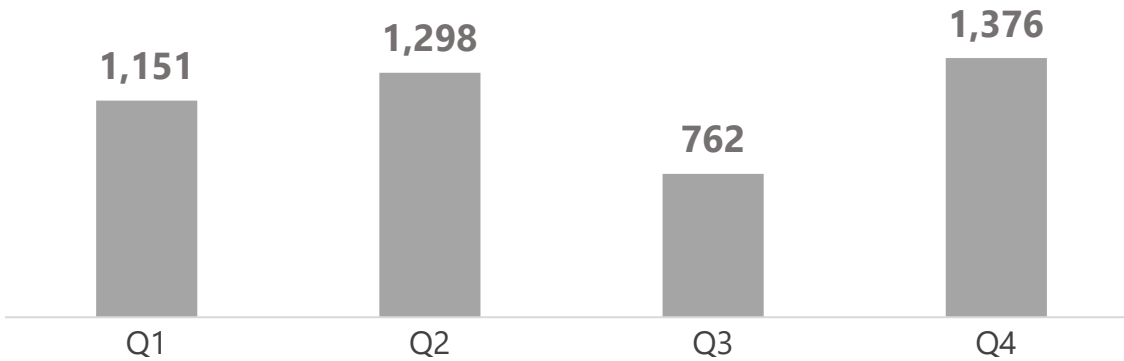
2024年の概況

- **ライフ**:下期にかけ、法医学関連部品需要の高まりを見込む。(23年対比 200%増 過去最高売上計画)
- **モビリティ**:好調な自動車市場の継続に伴い、部品需要は高水準で推移。
- **デジタルインフラ**:下期よりデータセンター市場の回復に伴い、部品需要の高まりを見込む。(23年の最低水準からは回復)
- **インダストリー**:圧電MEMSファウンドリ売上計画。(23年対比 250%増)

セグメント別 売上高 | 機械装置

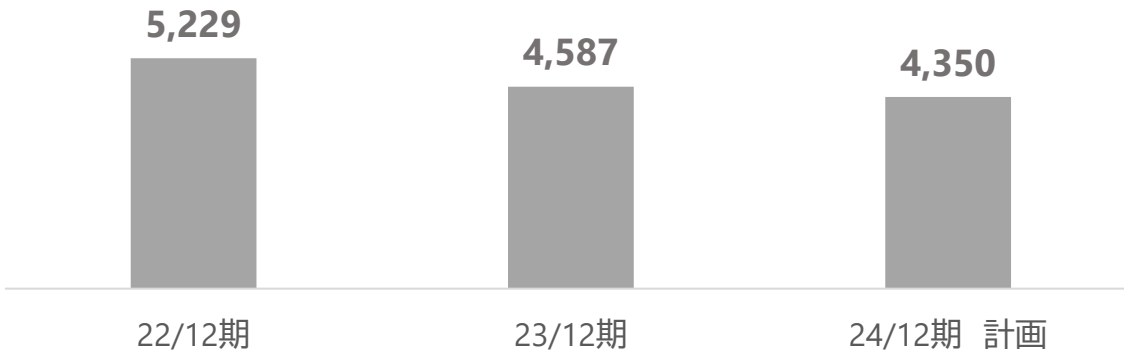
2023年 四半期別実績推移

単位:百万円



年度別実績 / 計画

単位:百万円



2023年Q4の概況

- インダストリー: 車載用やパワー半導体用封止装置の需要が堅調。



半導体樹脂封止装置



自動テープ貼付機

2024年の概況

- インダストリー:
民生用の半導体装置市場低迷の影響は限定的であり、パワー半導体用の装置需要は回復を見込む。(22年同水準レベル)

2023年実績・2024年計画 連結業績計画



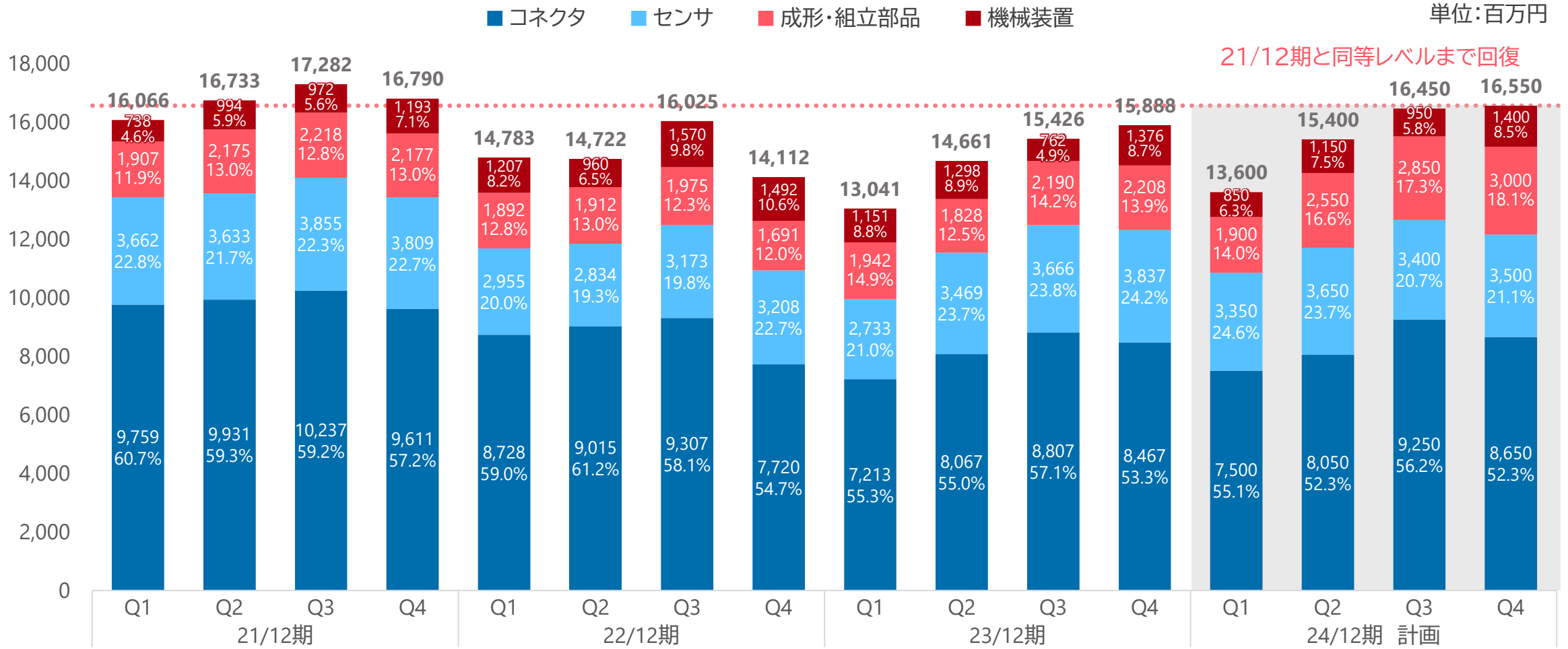
単位:百万円	23/12期		24/12期 計画		
	通期		通期		
	実績	構成比 (%)	計画	構成比 (%)	前年比
売上高	59,014	100.0%	62,000	100.0%	+2,986
コネクタ	32,555	55.2%	33,450	54.0%	+895
センサ	13,705	23.2%	13,900	22.4%	+195
成形・組立部品	8,167	13.8%	10,300	16.6%	+2,133
機械装置	4,587	7.8%	4,350	7.0%	▲237
営業利益	▲759	▲1.3%	3,000	4.8%	+3,759
経常利益	▲555	▲0.9%	2,800	4.5%	+3,355
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,269	▲2.2%	1,700	2.7%	+2,969
一株当たり配当金(円)	40	-	40	-	-
為替:円/US\$(期中平均)	141.20	-	140.00	-	-

24/12期 計画		
上期	下期	
計画	計画	上期比
29,000	33,000	+4,000
15,550	17,900	+2,350
7,000	6,900	▲100
4,450	5,850	+1,400
2,000	2,350	+350
310	2,690	+2,380
170	2,630	+2,460
▲360	2,060	+2,420
20	20	-
140.00	140.00	-

2021年12月期～2024年12月期



セグメント別 連結売上高 | 製品別(事業別)



環境・エネルギーソリューション事業への参入、圧電MEMSファウンドリ本格始動

環境・エネルギーソリューション事業への参入

- 循環型社会への貢献に向けた**環境・エネルギーソリューション事業**の第一歩として、電気自動車の使用済みリチウムイオンバッテリー(リユースLiB)を活用した蓄電池システムを通し、MaaS社会への実装等を目指す。
- リユースLiBを搭載した蓄電池製品を開発する株式会社L-B. Engineering Japanと資本業務提携。

車載用リチウムイオンバッテリーにおけるサーキュラーエコノミーのイメージ



圧電MEMSファウンドリ本格始動

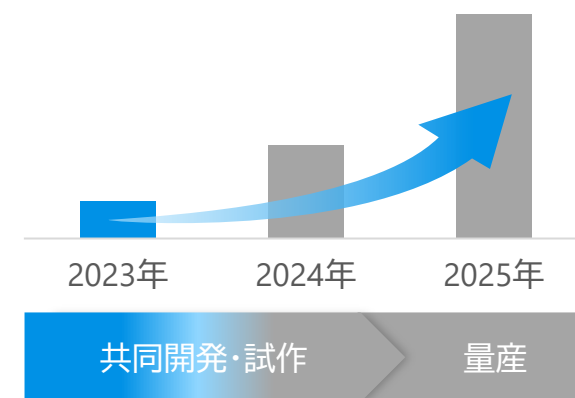
- 2024年以降、売上への寄与度が高まる。
(該当セグメント:成形・組立部品 > ■ インダストリー)
- 2025年の量産化に向け、計画通りに進行中。



MEMSデバイスの例



圧電MEMS事業 成長イメージ



セグメント別主要製品

市場別 製品別	ライフ	モビリティ	デジタルインフラ	インダストリー
コネクタ	<p>細線同軸コネクタ 基板対基板コネクタ RF同軸コネクタ</p>	<p>電源コネクタ 電源端子</p>	<p>RF同軸コネクタ 細線同軸コネクタ 光電変換モジュール</p>	<p>FPC/FFCコネクタ</p>
センサ		<p>回転センサ 圧力センサ</p>		<p>トルクセンサ</p>
成形・組立部品	<p>法医学関連部品</p>	<p>カードキー 制御ユニット</p>	<p>HDD機構部品</p>	<p>圧電MEMSファウンドリ 水道メーター</p>
機械装置				<p>半導体樹脂封止装置 自動テープ貼付機</p>



I-PEX株式会社

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。